



日本地球化学会ニュース

No. 246 September 2021

Contents

学会からのお知らせ	2
●日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2021年オンライン大会報告	
●Goldschmidt国際会議2021報告	
●第16回日本地球化学会ショートコース開催報告	

学会からのおしらせ

●日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2021年オンライン大会報告

日本地球惑星科学連合大会 (以下、連合大会) は、日本地球惑星科学連合 (Japan Geoscience Union; JpGU) の年次集会として、その前身である地球惑星科学関連学会合同大会を含めると1990年から開催されている、地球惑星科学に関連する日本最大の学術会議です。今年の連合大会は当初、一部のユニオン・パブリックセッションおよびイベントを5月30日(日)~6月1日(火)にパシフィック横浜ノース (神奈川県横浜市) で現地開催しつつZoomによるライブ中継も行い、その他のセッションを6月3日(木)~6日(日)にオンラインで開催するハイブリッド方式で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、最終的には日程は変更しないまま、完全オンラインで実施されました。

オンライン学術会議システム Confit を参加者ログインとプログラム、各種連絡、出展、個人用スケジュール・ブックマーク等の大会コンテンツのブラウジングと検索のプラットフォームとして、口頭発表は1日最大26チャンネル同時並行で開催されるZoomを用いたオンラインセッションにて行われ、ポスター発表は Confit 上の e-poster (PDF ファイルをダウンロード不可の状態に表示) で掲示するとともに、ポスターコアタイムではZoomのブレイクアウトルームを利用してポスター演題ごとにディスカッションするという形式で行われました。ユニオンセッションにおける講演や各賞の表彰式、ランチタイムスペシャルレクチャーの録画は7月末まで Confit 上でオンデマンド配信されました。また大会コンテンツと発表資料等は、2022年3月31日まで参加者は閲覧できます。

今回の開催セッション数は220件、全発表論文数は3,679件、全参加者数は5,517名であり、AGUとの共同でのオンライン開催であった昨年 (それぞれ275件、5,419件、5,993名) と比較しても大きくは見劣りせず、またオンライン参加・発表にかかる大きなトラブルもなく、コロナ禍での学会開催にも運営、参加者ともに慣れてきたように思われます。一方でオンライン学会で実現が難しいとされる、研究者間の自由な議論や交流の場を提供する試みとして、仮想空間におけるコミュニケーションツール oVice が導入されましたが、周知不足や利用者が増えると動作が重くなるなどの問題もあり、利用した参加者はあまり多くなかつ

たようです。また昨年は実施できなかった学生優秀発表賞の審査と表彰が行われ、400名を超える審査エントリー者の中から42名が表彰されました。日本地球化学会からは仁木創太会員 (東京大学) と吉岡純平会員 (東京大学) が受賞されました。

関連企業や学協会、大学・研究機関等による展示企画もオンラインで行われ、日本地球化学会も例年どおり出展し、Confit上に学会の概要、年会・ショートコース案内、GJオープンアクセス化と学生バック拡充の紹介を掲載しました。会期中の閲覧数は163回 (昨年の展示iPoster閲覧数は184回) でした。また昨年に引き続き、トップページ等にバナー広告を掲載し、クイズラリーにも参加しました。

来年の連合大会は、依然としてコロナ禍の収束が見通せないため、完全オンライン開催あるいは現地開催とオンライン開催の併用 (ハイブリッド開催) となる可能性はあるものの、2022年5月22日(日) から26日(木)まで、幕張メッセ等 (千葉県千葉市幕張) で開催される予定です。連合大会は、専門が異なる分野の研究者との交流や接点を作る絶好の機会です。またコロナ禍の副産物として海外からのオンライン参加のハードルが大幅に下がっているため、引き続き海外における国際学会に比肩するほどの国際交流の場になると期待されます。来年も多くの日本地球化学会会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

(広報幹事・広報委員 JpGU 担当 角野浩史)

●Goldschmidt 国際会議 2021 報告

Goldschmidt 国際会議は、ヨーロッパ地球化学連合 (European Association of Geochemistry: EAG) と米国地球化学会 (Geochemical Society: GS) が主催、日本地球化学会が共催する国際学会で、地球化学関連分野では参加者数が最大規模の学会です。2021年の第31回会議は、当初、フランス南東部のリヨン市にてリモートと対面を併用したハイブリッド形式での開催が予定されていましたが、世界規模でのコロナ禍が治まりを見せない中、昨年に引き続き、完全リモート形式にて7月4日(日) から9日(金) までの6日間にわたりバーチャル開催となりました。EAGの公式発表では、3,200人を超える登録者総数となっています。

今回の会議内容は、例年とほぼ同様に、基調講演をのぞく14に区分されたテーマのもと98セッションで構成されており、世界各国のオンライン参加者の個々の現地時間に部分的に対応できるように、毎日のセッ

ションは中央ヨーロッパ夏時間 (CEST) で午前9時～11時30分と午後4時30分～7時に実施されました。また、基調講演は、多くの参加者が視聴できるような配慮のもと、正午12時と午後10時の一日2回各45分間設定されました。これらのスケジュールの間を利用して、スポンサーによるセミナー、ポスターセッション、ソーシャルイベントが効率よく設定されていました。その他のオプションとして、本会議の前週にあたる6月28日(月)～7月2日(金)に11のワークショップが開催されました。

発表者は事前に静止画像ファイルあるいは音声入り動画ファイルをアップロードし、各セッションのライブ参加によるディスカッション以外にも、参加者はチャット機能等を通してディスカッションができるようなシステムとなっていました。また、会期終了後7月23日までの2週間にわたって、発表ファイルの視聴やチャット機能による意見交換が可能のように配慮されていたことはバーチャル開催ならではの工夫でした。

会期中に各賞受賞者の講演がありました。日本地球化学会に関連するものとして、今年の高J論文賞であるTakamasa, A. et al. "Improved method for highly precise and accurate $^{182}\text{W}/^{184}\text{W}$ isotope measurements by multiple collector inductively coupled plasma mass spectrometry and application for terrestrial samples" vol. 54 (No. 3), pp. 117-127 (2020) に対して、同論文の筆頭著者の賞雅朝子会員による受賞講演が行われました。

例年、日本地球化学会として出展参加しているブース展示は、今回も昨年に引き続き、バーチャル形式で行われました。ブースにおける広報活動においては、これまで対面式にて日本地球化学会のロゴの入ったノベルティグッズの無料配布や本学会会員が関係する国際研究集会・セミナーなどの告知などを行ってきましましたが、オンライン広報用の素材を準備しておくことも今後必要かとあらためて思いました。

次回、来年の第32回会議は米国ハワイ州ホノルル市にて、リモートと対面を併用したハイブリッド形式で7月10日(日)～7月15日(金)に開催予定です。

(広報委員 Goldschmidt 会議担当 日高 洋,
広報幹事 角野浩史)

●第16回日本地球化学会ショートコース開催報告

2021年7月17日(土)に、第16回日本地球化学会

ショートコースを開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年に引き続き、オンラインでの開催となった。昨年の委員のうち5名に加え、新たに鹿児島会員(富山大)、窪田会員(神戸大)、そして、昨年の講師である八田会員(JAMSTEC)が新たに加わった8名が運営を行った。

講師は4名、受講者は学生32名(会員16名、非会員16名)、一般28名(会員22名、非会員6名)の合計60名であった。今年ショートコースでは、国内外で活躍されている若手研究者の方々に講師にお呼びし、キャリア形成、地球システム科学、分光学、分析化学といった幅広いテーマでご講演頂いた(下記、プログラム参照)。また、初の試みとして、伝わりやすい発表とは何かについて、Zoomのブレイクアウトルームを利用して参加者と議論する運営委員主体の企画も行った。

以下に当日のプログラムを記す。

プログラム

スペシャル朝活セミナー

7:45-8:45 Manabu Shiraiwa 先生(カリフォルニア大学アーバイン校)

「海外におけるキャリア形成」

講演プログラム

9:10-10:00 尾崎和海先生(東邦大学)

「生物惑星化学を指向した数値モデリングとその将来展望」

10:00-10:50 松岡萌先生(JAXA)

「分光学と宇宙地球化学：反射スペクトルが繋ぐ隕石と小惑星」

10:55-11:45 亀山宗彦先生(北海道大学)

「分析技術の進歩によって見えてくる化学物質循環像～「技術者の研究者」の生存戦略～」

運営委員企画

11:50-12:30 「伝わりやすい発表について考える」

各講師の講演要旨やプログラムはウェブサイト(<https://gsjevent.s2y.jp/2021/>)に引き続き掲載しており、また、同ウェブサイトにはアンケートの結果も掲載している。

朝7:30からの朝活セミナーから始まった講師の先生方のご講演、運営委員企画、そして、夜にはオンライン懇親会も開催し、大変盛り上がったショートコースになった。参加者からのアンケート内容でも好評の

声を多数いただいております、先生方のご講演についてはもちろん、参加者同士で議論を交わす運営委員企画も非常に満足いただけた内容となりました。また、この機会に新たに学会に入会した参加者が5名いるなど、昨年に引き続き、学会運営にも貢献することが出来た有意義なショートコースであったと言える。

参加者、また、特に、若手研究者や学生に向けた貴重なご講演をして下さった講師の皆様には、運営委員一同心より御礼申し上げます。また、今回のオンラインショートコース開催に伴い、お世話になった日本地球化学会理事の方々、特に会計関係で多くのお力添えを頂いた浅原良浩会員（名大、日本地球化学会会計幹事）に、感謝の意を表します。

会計報告

収入は参加費のみである。本ショートコースの参加費は、日本地球化学会学生会員は無料とし、非会員は1,000円とした。なお、非会員申込者の中で今回新たに会員になった人が5名いたため、参加費回収は17名分であった。

支出は、講師料（1人あたり7,000円）3名分であった（1名辞退）。

収支は赤字となっているが、新規会員が増えたことや、昨年のオンラインショートコースの経験も活かし、運営委員にとって今後のショートコースや学会運営に対して有用かつ貴重な経験を得ることが出来た点を踏まえ、本ショートコース開催は大きな意義があったと考える。

収入			支出		
人数	単価(円)	小計(円)	人数	単価(円)	小計(円)
17	1000	17000	3	7000	21000
合計		17000			21000

補足事項

*非会員の参加者5名は参加登録後に新たに入会したため、参加費は無料とした。

*講師料について、一部の先生はご辞退された。

ショートコース運営委員：橋口未奈子（名大）・安藤卓人（島根大）・鹿児島渉悟（富山大）・窪田 薫（神戸大）・八田真理子（JAMSTEC）・日比谷由紀（東大）・山田明憲（豊島電気）・服部祥平（東工大、日本地球化学会企画幹事）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2021年12月頃を予定しています。ニュース原稿は11月中旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

太田充恒
〒305-8567 つくば市東1-1-1
産業技術総合研究所地質情報研究部門
Tel: 029-861-3848; Fax: 029-861-3566
E-mail: news-hp@geochem.jp

角野浩史
〒153-0041 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻
Tel: 03-5454-6741; Fax: 03-5454-6741
E-mail: news-hp@geochem.jp